

# 令和4年度 第2回 安城市都市計画審議会

令和4年11月16日  
都市整備部都市計画課

P.1

令和4年度

- ・ 諮問
- ・ 成果指標の達成状況について
- ・ 防災指針の概要
- ・ **防災指針について**
- ・ 見直し方針について
- ・ 第9次安城市総合計画の策定と合わせた計画の見直しについて
- ・ 素案の提示
- ・ 修正案提示及びパブリックコメントの実施
- ・ パブリックコメントの結果と計画への反映
- ・ 答申
- ・ 議決（令和6年3月）

令和5年度

P.2

# 第1部

## 第三次安城市都市計画マスタープランの 中間見直しについて（防災指針）

P.3

# 防災指針について

- 1 立地適正化計画について
- 2 防災指針（素案）について

P.4

# 1 立地適正化計画について

P.5

## コンパクトシティ・プラス・ネットワークのねらい

○都市のコンパクト化は、居住や都市機能の集積による「密度の経済」の発揮を通じて、**住民の生活利便性の維持・向上**、サービス産業の生産性向上による**地域経済の活性化**、行政サービスの効率化等による**行政コストの削減**などの**具体的な行政目的を実現するための有効な政策手段**。

### 都市が抱える課題

都市を取り巻く状況

- **人口減少・高齢者の増加**
- **拡散した市街地の低密度化**



### ■ 都市の生活を支える機能の低下

- 医療・福祉・商業等の生活サービスの維持が困難に
- 公共交通ネットワークの縮小・サービス水準の低下

### ■ 地域経済の衰退

- 地域の産業の停滞、企業の撤退
- 中心市街地の衰退、低未利用地や空き店舗の増加

### ■ 厳しい財政状況

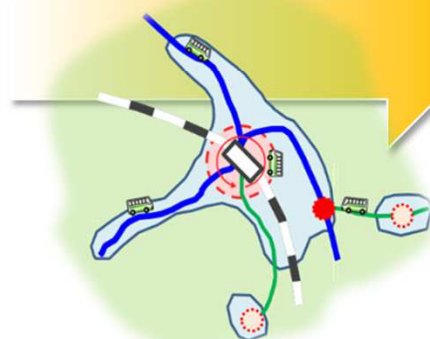
- 社会保障費の増加
- インフラの老朽化への対応

### コンパクトシティ

生活サービス機能と居住を集約・誘導し、人口を集積

＋  
ネットワーク

まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築



中心拠点や生活拠点が  
利便性の高い公共交通で結ばれた  
多極ネットワーク型コンパクトシティ

資料：国土交通省資料

### コンパクト化による効果の例

#### 生活利便性の維持・向上等

- 生活サービス機能の維持
  - 生活サービス施設へのアクセス確保など利用環境の向上
  - 高齢者の社会参画
- ➡ 高齢者や子育て世代が安心・快適に生活できる都市環境

#### 地域経済の活性化

- サービス産業の生産性向上、投資誘発
  - 外出機会・滞在時間の増加による消費拡大
- ➡ ビジネス環境の維持・向上により地域の「稼ぐ力」に寄与

#### 行政コストの削減等

- インフラの維持管理の合理化
  - 行政サービスの効率化
  - 地価の維持・固定資産税収の確保
  - 健康増進による社会保障費の抑制
- ➡ 財政面でも持続可能な都市経営

#### 地球環境への負荷の低減

- エネルギーの効率的利用
  - CO2排出量の削減
- ➡ 低炭素型の都市構造の実現

P.6



## 立地適正化計画に記載する事項

### 立地適正化に関する方針

まちづくりの理念や目標、目指すべき都市像や、一定の人口密度の維持や生活サービス機能の計画的配置及び公共交通の充実のための施策を実現する上での基本的な方向性を記載

### 都市機能誘導区域

商業、医療、福祉等の都市機能を都市の中心拠点や生活拠点に誘導し集約することで各種サービスの効率的な提供を図る区域

### 誘導施設

都市機能誘導区域ごとに、立地を誘導すべき都市機能増進施設（居住者の共同の福祉や利便性の向上を図るために必要な施設）

### 居住誘導区域

一定のエリアにおいて人口密度を維持することによって、生活サービスやコミュニティが持続的に確保されるように居住を誘導する区域

### 誘導施策

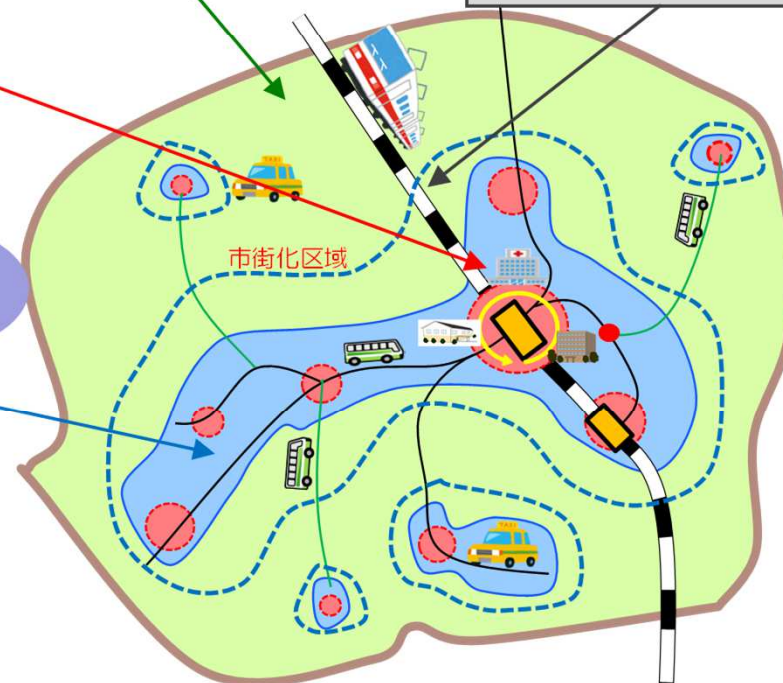
居住を誘導するための施策や都市機能誘導区域内に都市機能を誘導するための施策を記載

### 立地適正化計画の区域 (=都市計画区域(市全域))

### 公共交通

維持・充実に図る公共交通網を設定

届出制度  
の運用



立地適正化計画の区域設定イメージ資料：国土交通省資料（一部追記）

P.7

## 2 防災指針（素案）について

P.8



## 近年の水災害について

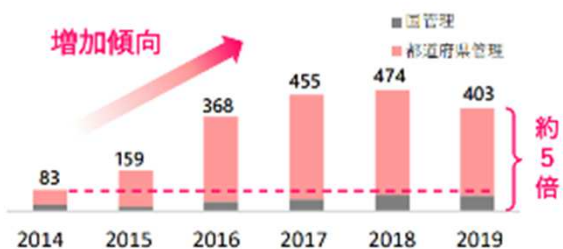
近年、**短時間強雨**（時間降水量50mm以上）**が増加の傾向に**  
合わせて土砂災害や河川堤防の決壊等による浸水などが発生  
生命や財産、社会経済に甚大な被害が生じている

今後も気候変動の影響により、  
**自然災害が頻発・激甚化することが懸念される**

安城市においても令和4年7月末には猛烈な雨  
（時間最大雨量92mm）が降り、本市の時間最  
大雨量の観測上過去最高を記録

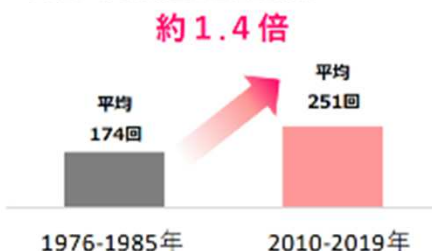
### 気候変動による水災害の頻発・激甚化

- 氾濫危険水位を超過した河川数は、  
増加傾向



氾濫危険水位を超過した河川数

- 短時間強雨の発生頻度が直近30～  
40年間で約1.4倍に拡大  
※令和元年東日本台風では、103もの地点で24時  
間降水量が観測史上1位の値を更新



短時間強雨（1時間降水量50mm以上）の年間発生回数

※アメダス1,000地点あたり

出典：国土交通省 総力戦で挑む防災・減災プロジェクト



半場川 堤防 応急復旧工事の状況

出典：国土交通省「令和4年7月半場川(愛知県安城市)の  
堤防決壊への対応(最終報)」

P.9

## 「防災指針」とは

こうした自然災害、特に水災害(※)に対応するため、

※水災害：水害（洪水・雨水出水（内水）・津波・高潮）、土砂災害

令和2年6月に都市再生特別措置法が改正

## 立地適正化計画に防災指針の位置づけが必要に

防災指針は、居住や都市機能の誘導を図る上で必要となる都市の防災に関する機能の確保を図るための指針であり、当該指針に基づく具体的な取組と併せて立地適正化計画に定めるものである。

災害リスクを踏まえた課題を抽出し、都市の防災に関する機能の確保のため、防災指針を定めるとともに、この方針に基づく具体的な取組を位置付けることとしている。

※都市計画運用指針 第12版より抜粋

**居住誘導区域（マチナカ居住誘導区域）を対象とすることを  
基本として検討する**

P.10

## 防災指針の検討内容

国土交通省都市局「立地適正化計画作成の手引き」を参考に作成

誘導施設・誘導区域等の検討

連携した検討



必要に応じ

### 防災指針の検討内容

#### (1)居住誘導区域等における災害リスク分析と 防災・減災まちづくりに向けた課題の抽出

- ①災害ハザード情報等の収集、整理
- ②災害リスクの高い地域等の抽出
- ③地区ごとの防災上の課題の整理

#### (2)防災まちづくりの将来像、取組方針の検討

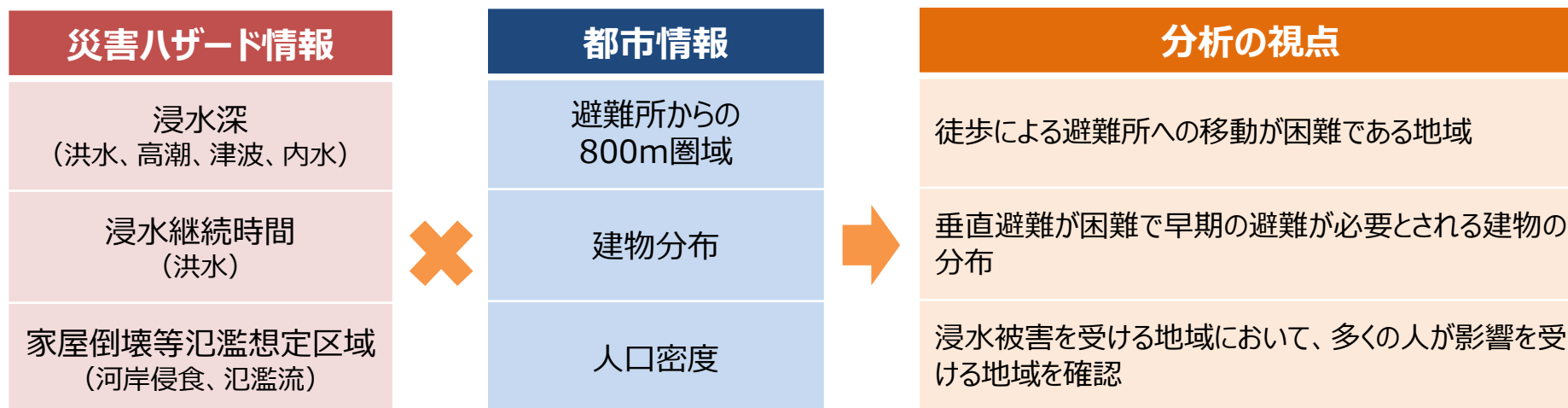
- ①地区ごとの課題を踏まえた取組方針の検討

#### (3)具体的な取組、スケジュール、目標値の検討

- ①防災指針に基づく具体的なハード・ソフトの取組の検討
- ②取組スケジュールと目標値の検討
- ③防災指針に関連する制度の活用

出典：国土交通省 立地適正化計画作成の手引きより一部編集 P.11

## 災害ハザードと都市情報の重ね合わせ

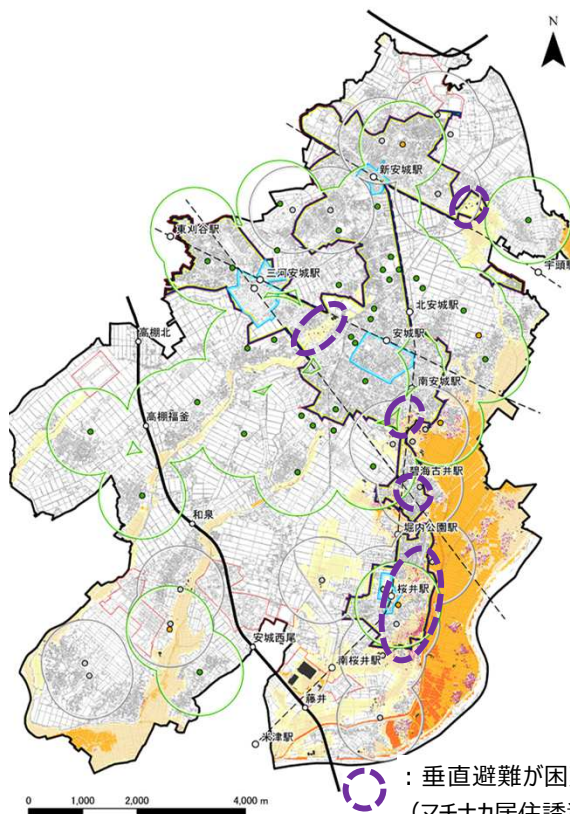
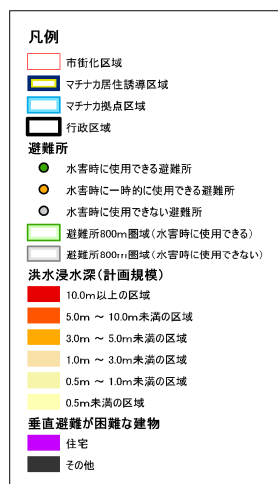




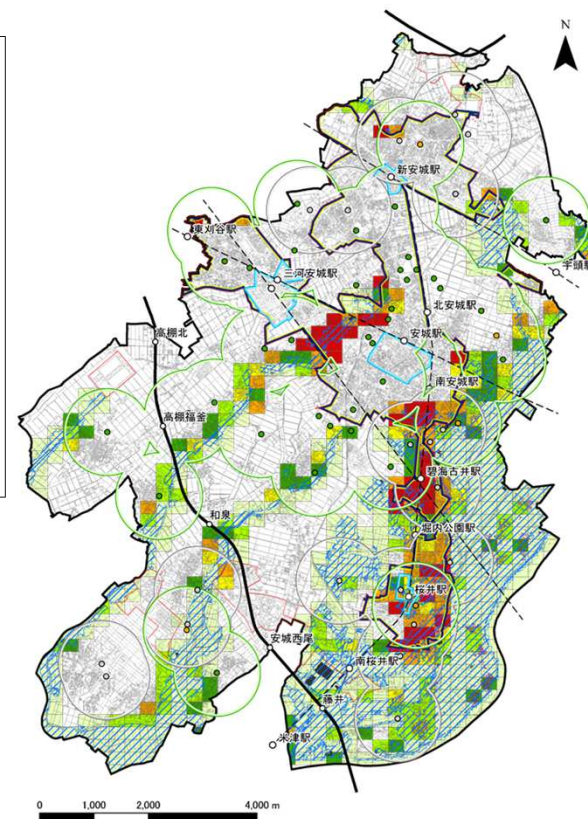
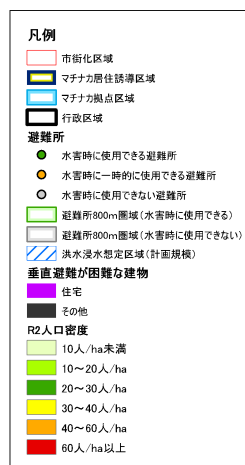
## 洪水浸水想定区域×都市情報

### 洪水浸水想定区域（計画規模（L1））：

発生頻度が高い計画規模による洪水では、南安城駅、碧海古井駅周辺の一部及び桜井駅の東部で浸水深1m以上の浸水が想定され、垂直避難が困難な平屋建ての建物が分布しています。また、桜井駅の東部においては、浸水深3m以上の浸水が一部でみられ、垂直避難が困難な2階建ての建物もみられます。



：垂直避難が困難な建物が分布している地域  
（マチナカ居住誘導区域）



P.13

## 洪水（計画規模（L1））浸水想定区域からみえる課題

### 横山地区：

**洪水** 河川の洪水により浸水深0.5m未満の浸水が想定され、一部で0.5～1mの浸水深がみられ、一部で垂直避難が困難な建物も分布している

課題⇒居住者等の避難対策が必要

課題⇒住宅等の浸水対策が必要

### 尾崎地区：

**洪水** 河川の洪水により浸水深0.5m以上の浸水が工業地等で想定され、水害時に開設される避難所まで距離がある

課題⇒従業員等の安全確保が必要

### 南安城・古井地区

**洪水** 河川の洪水により市街地の一部で浸水深1m以上の浸水が想定され、垂直避難が困難な建物も分布し、水害時に開設される避難所まで距離がある

課題⇒居住者等の避難対策が必要

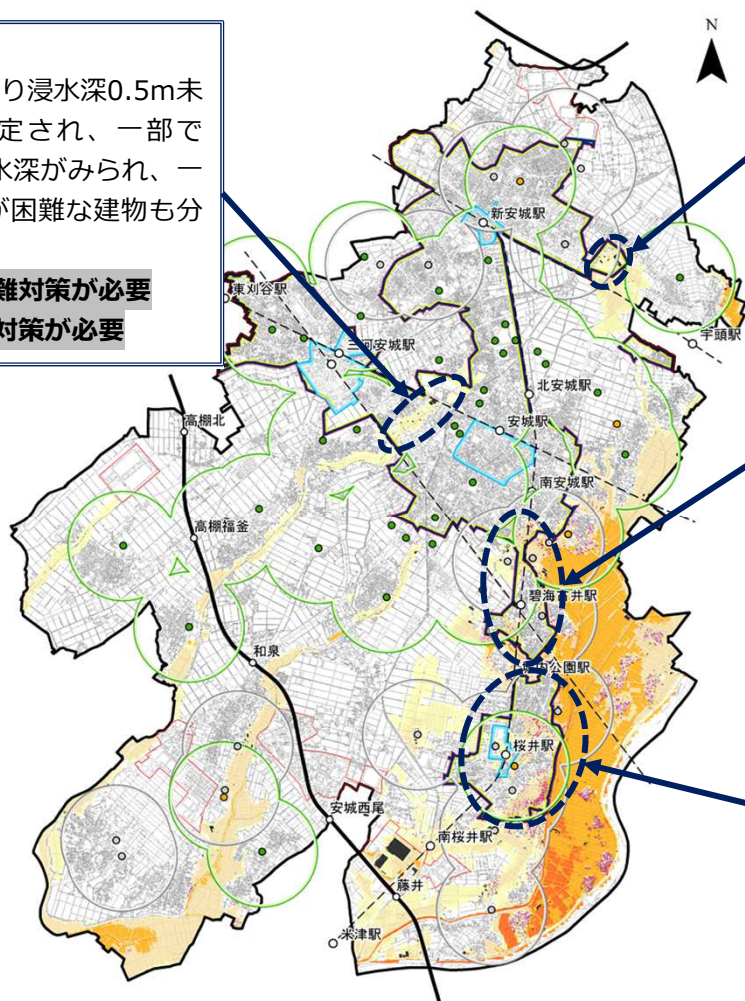
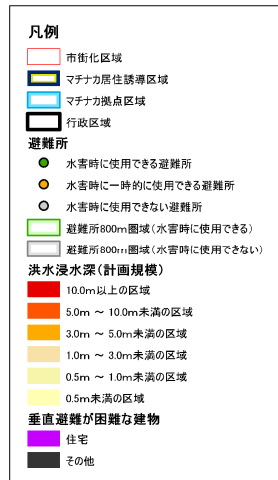
課題⇒住宅等の浸水対策が必要

### 桜井地区：

**洪水** 河川の洪水により市街地の一部で浸水深3m以上の浸水が想定され、垂直避難が困難な建物も分布し、水害時に開設される避難所まで距離がある

課題⇒居住者等の避難対策が必要

課題⇒住宅等の浸水対策が必要

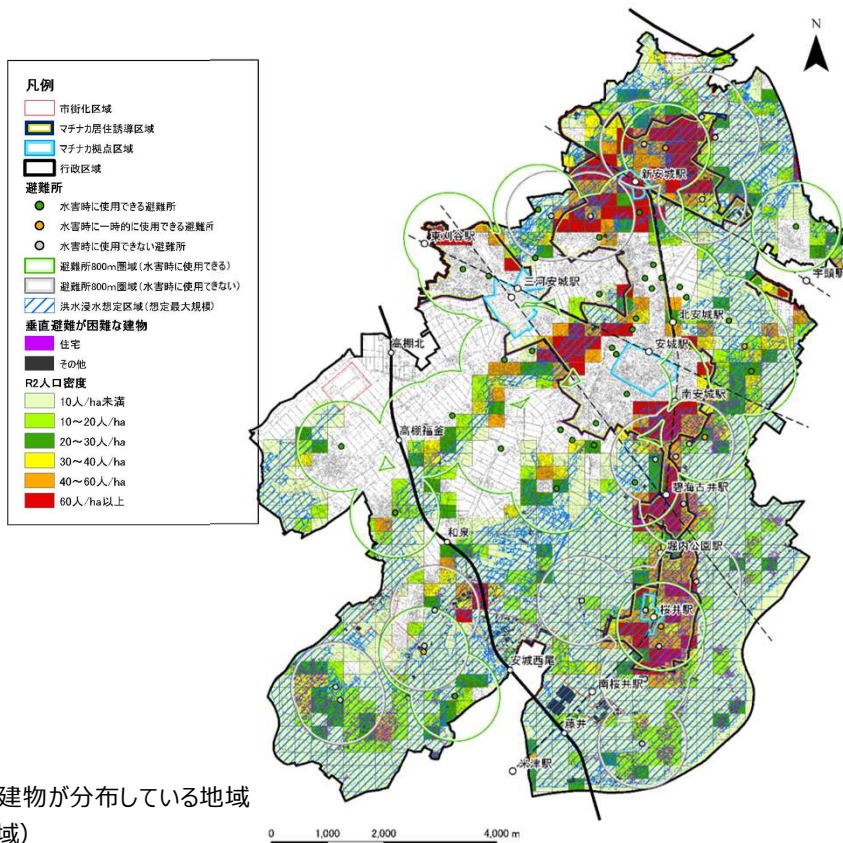
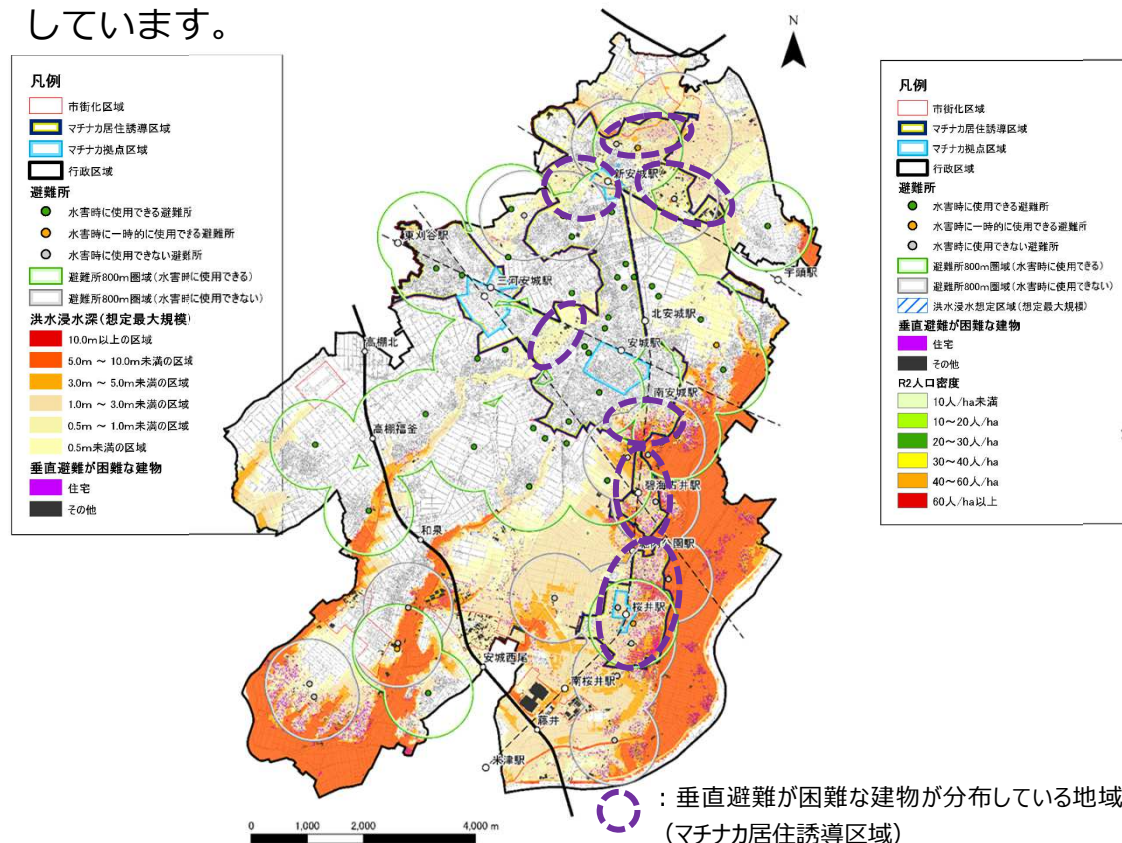




## 洪水浸水想定区域×都市情報

### 洪水浸水想定区域（想定最大規模（L2））：

発生頻度が低い（1000年に一度程度）の想定最大規模による洪水では、南安城駅、碧海古井駅、堀内公園駅、桜井駅周辺や新安城駅の北側の広い範囲で浸水深1～3m以上の浸水が想定されています。南安城駅、碧海古井駅、桜井駅周辺では、浸水深3m以上の地域もみられ、垂直避難が困難な建物が分布しています。

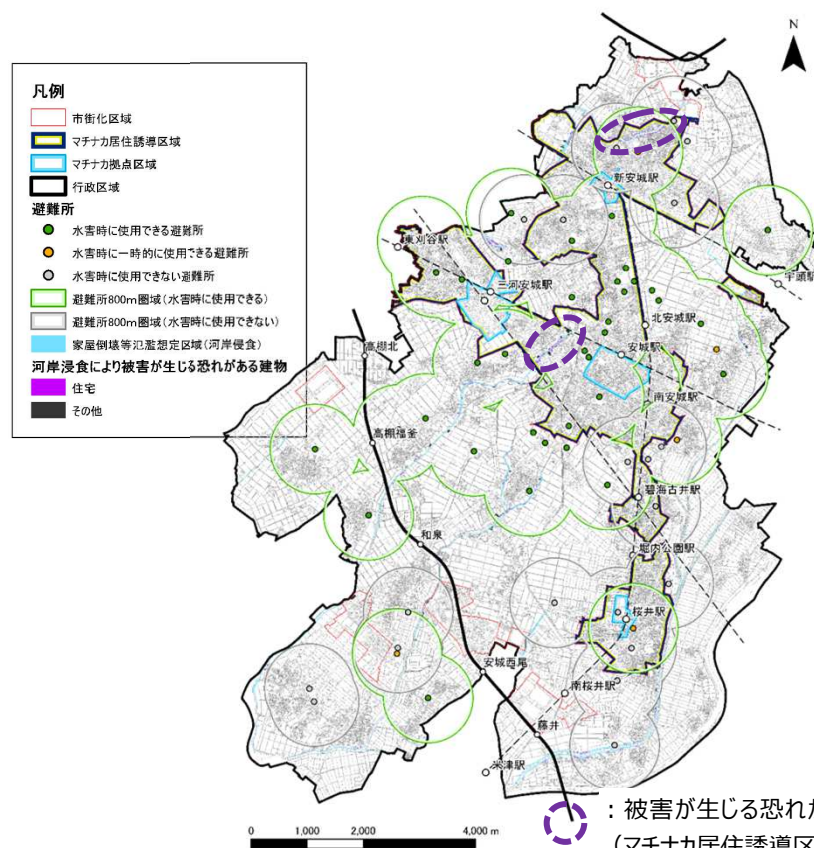


P.15

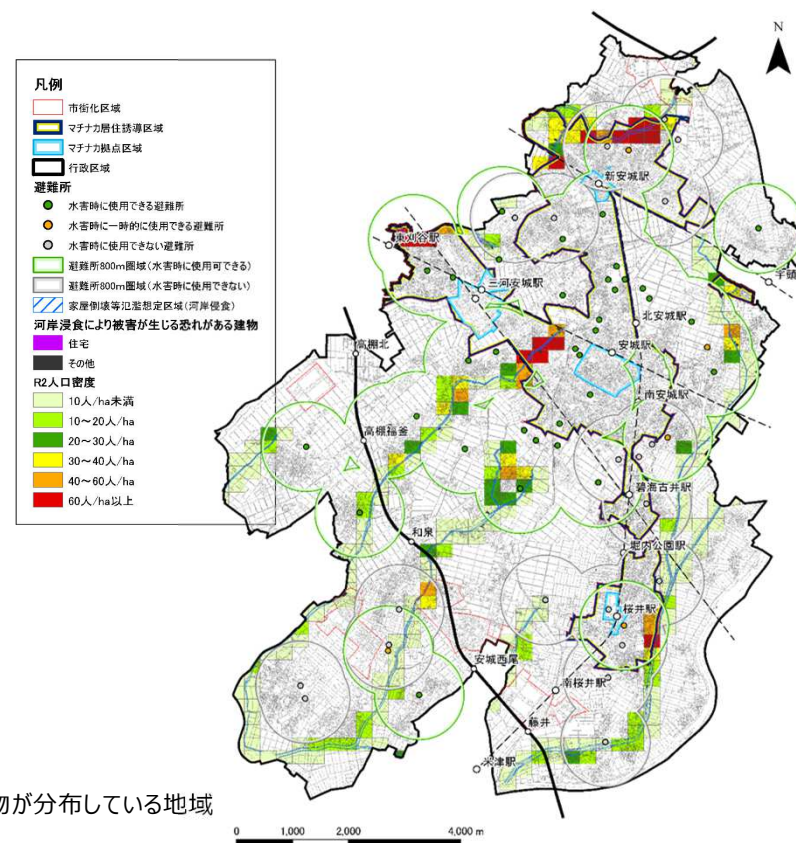
## 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）×都市情報

### 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）：

河岸が侵食した場合に家屋が倒壊・流出する等の被害が懸念される家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）は、猿渡川、長田川等の周辺にみられ、一部では建物が分布しています。



：被害が生じる恐れがある建物が分布している地域  
(マチナカ居住誘導区域)



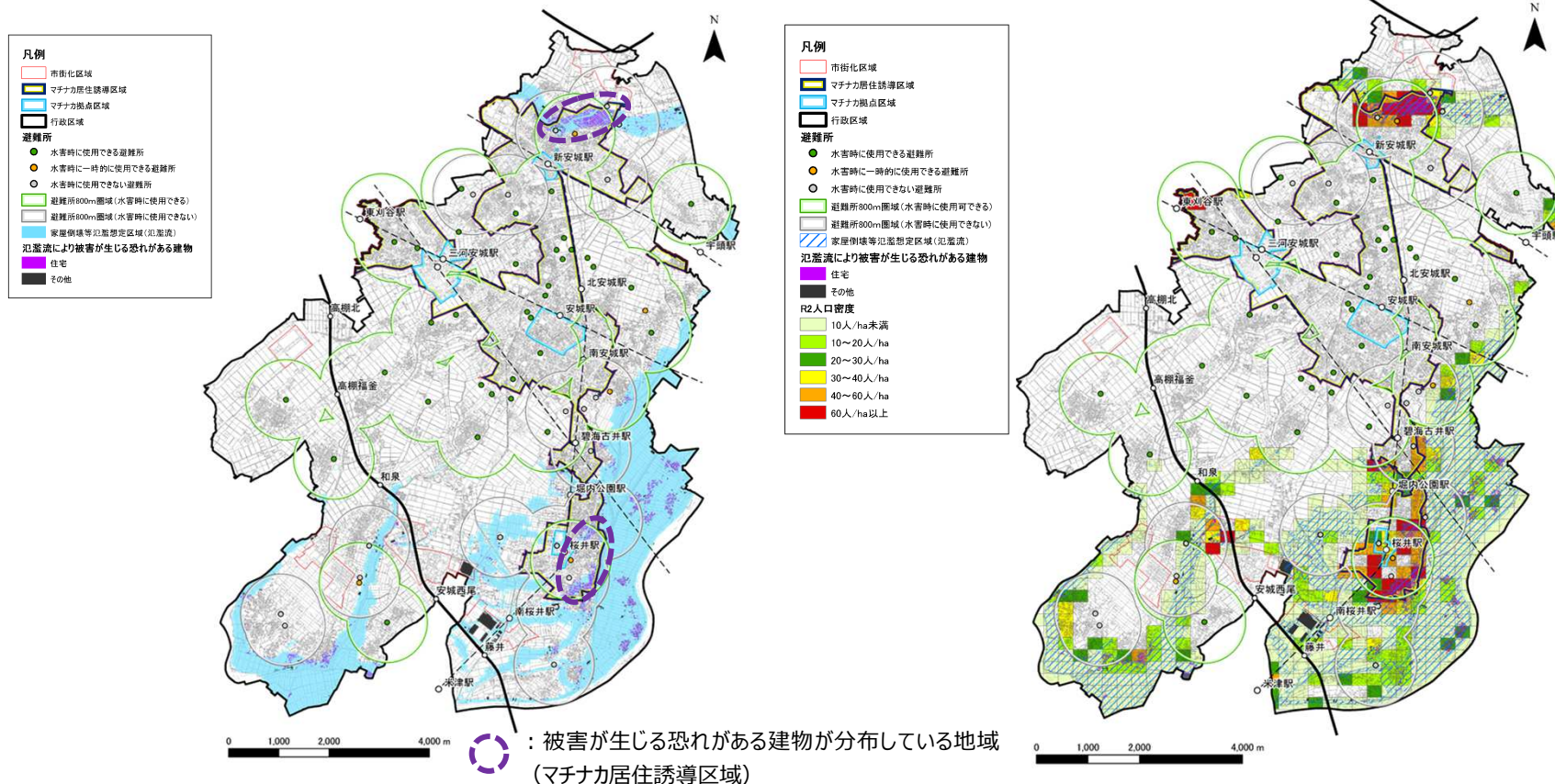
P.16



## 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）×都市情報

### 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）：

氾濫流が発生した場合に家屋が倒壊・流出する等の被害が懸念される家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）は、新安城駅の北側や桜井駅の東側などにみられ、被害が生じる恐れがある建物が多く分布しています。

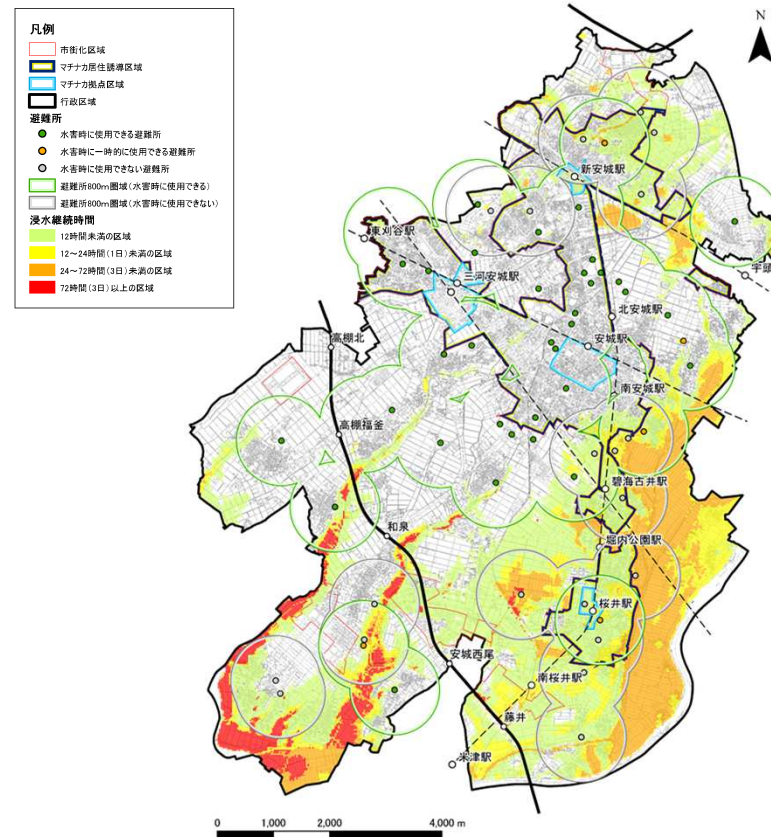


P.17

## 浸水継続時間（想定最大規模降雨（L2））×都市情報

### 浸水継続時間（想定最大規模降雨（L2））：

マチナカ居住誘導区域において、健康障害の発生や最悪の場合は生命の危機が生じる恐れがあるとされる3日以上浸水が継続し、孤立する懸念がある地域はみられません。



P.18



## 洪水（想定最大規模（L2））浸水想定区域からみえる課題

### 横山地区：

**洪水** 河川の洪水により浸水深0.5m未満の浸水が想定され、一部で0.5～1mの浸水深がみられ、垂直避難が困難な建物も分布し、河岸侵食による家屋倒壊も懸念される

課題⇒居住者等の避難対策が必要  
課題⇒住宅等の浸水対策が必要

### 里地区：

**洪水** 河川の洪水により浸水深1m以上の浸水が想定されるとともに、河岸侵食及び氾濫流による家屋倒壊が懸念される

課題⇒居住者等の避難対策が必要  
課題⇒住宅等の浸水対策が必要

### 東栄・尾崎地区：

**洪水** 河川の洪水により浸水深1m以上の浸水が工業地等で想定され、水害時に開設される避難所まで距離がある

課題⇒従業員等の安全確保が必要

### 住吉地区：

**洪水** 河川の洪水により浸水深1m以上の浸水が想定され、一部地域で水害時に開設される避難所まで距離がある

課題⇒居住者等の避難対策が必要  
課題⇒住宅等の浸水対策が必要

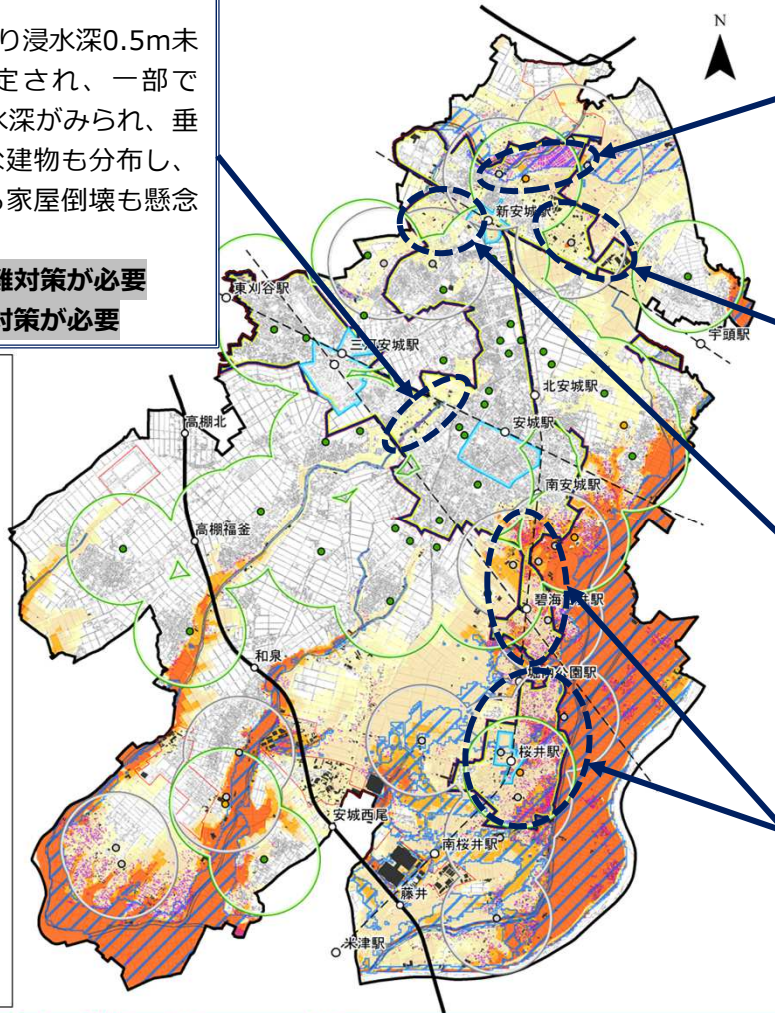
### 南安城・古井地区

#### 桜井地区：

**洪水** 河川の洪水により一部では浸水深3m以上の浸水が想定され、垂直避難が困難な建物も分布し、水害時に開設される避難所まで距離がある。一部地域で氾濫流による家屋倒壊が懸念される

課題⇒居住者等の避難対策が必要  
課題⇒住宅等の浸水対策が必要

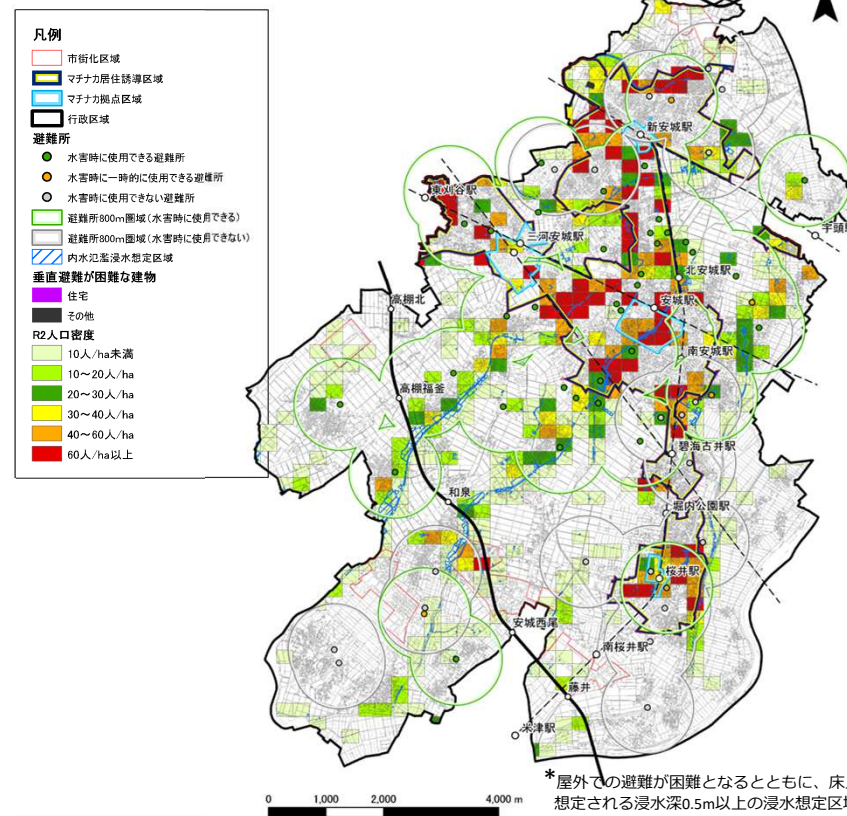
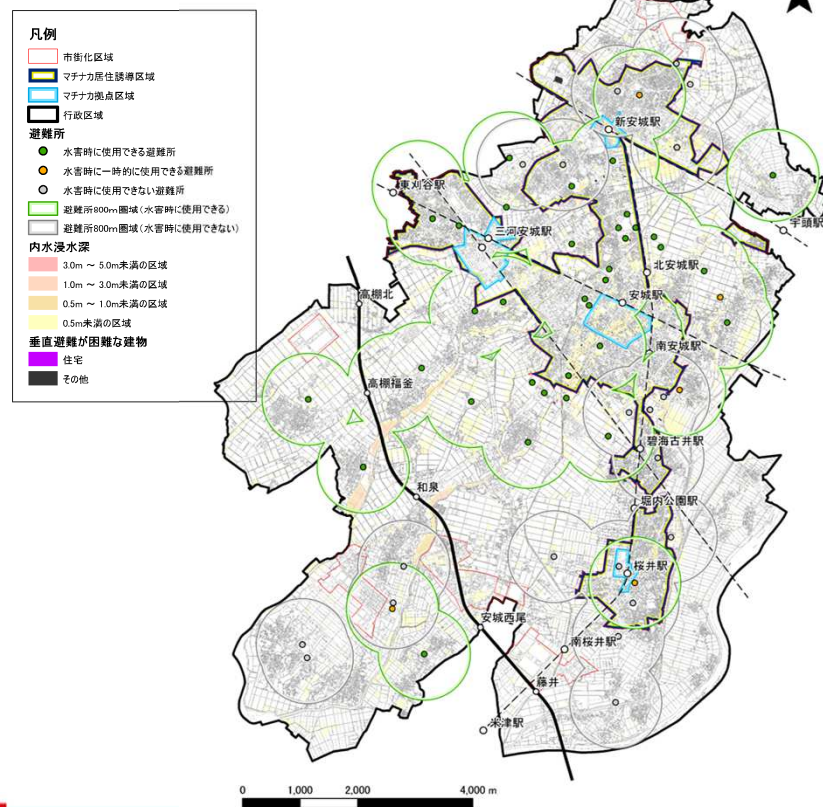
- 凡例
- 市街化区域
  - マチナカ居住誘導区域
  - マチナカ拠点区域
  - 行政区域
  - 避難所
    - 水害時に使用できる避難所
    - 水害時に一時的に使用できる避難所
    - 水害時に使用できない避難所
    - 避難所800m圏域（水害時に使用できる）
    - 避難所800m圏域（水害時に使用できない）
  - 洪水浸水深（想定最大規模）
    - 10.0m以上の区域
    - 5.0m～10.0m未満の区域
    - 3.0m～5.0m未満の区域
    - 1.0m～3.0m未満の区域
    - 0.5m～1.0m未満の区域
    - 0.5m未満の区域
  - 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸侵食）
  - 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）
  - 垂直避難が困難な建物
    - 住宅
    - その他
  - 河岸浸食により被害が生じる恐れがある建物
    - 住宅
    - その他
  - 氾濫流により被害が生じる恐れがある建物
    - 住宅
    - その他



## 内水浸水想定区域×都市情報

### 内水浸水想定区域：

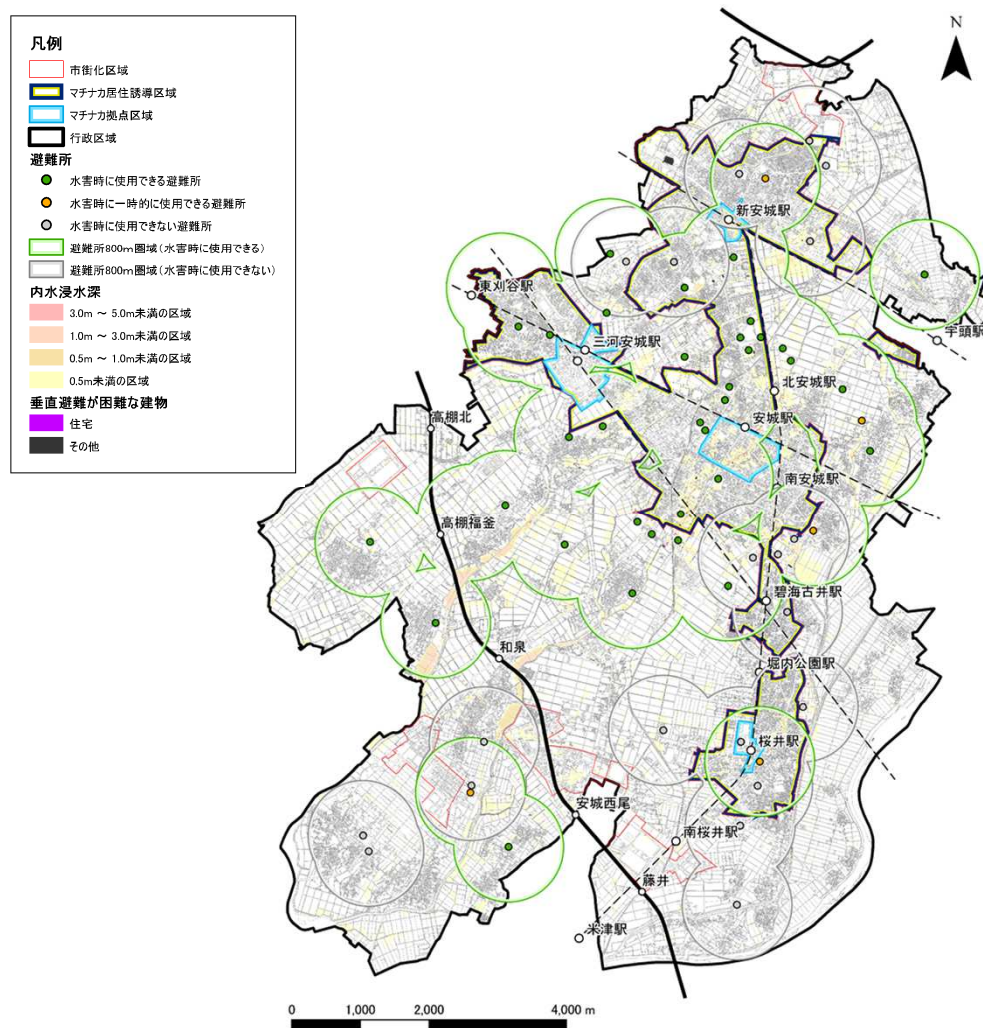
市全域で内水浸水想定区域がみられ、屋外での避難行動が困難になるとされる浸水深0.5m未満が大半であるものの浸水が広く想定されます。また、マチナカ居住誘導区域においても浸水深0.5m未満の浸水が広くみられ、河川に近接した地域の一部で0.5～1mの浸水が想定され、垂直避難が困難な建物も分布しています。



\* 屋外での避難が困難となるとともに、床上浸水が想定される浸水深0.5m以上の浸水想定区域のみ表示 P.20



## 内水浸水想定区域からみえる課題



### マチナカ居住誘導区域：

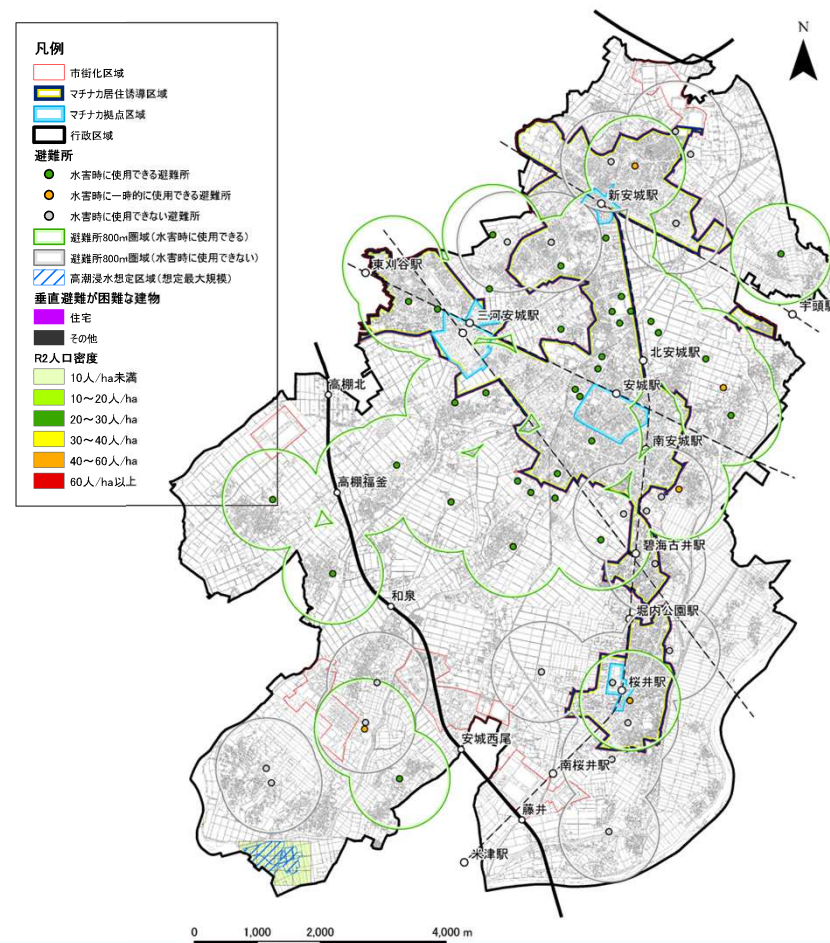
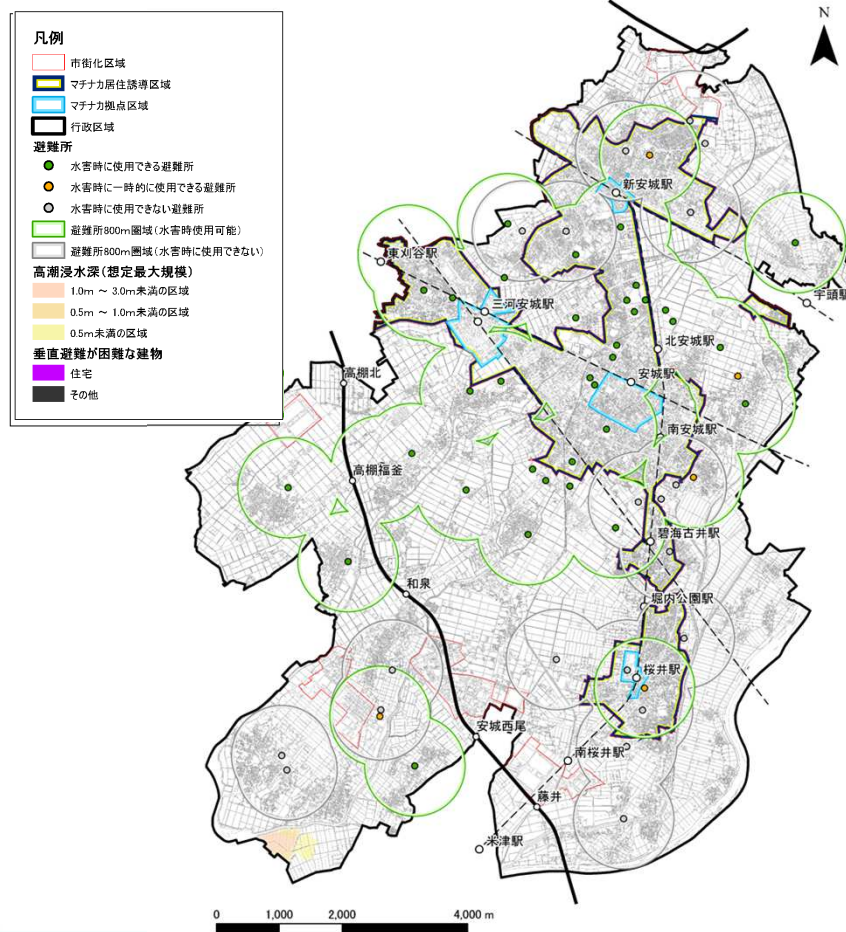
**内水** 内水によりマチナカ居住誘導区域内で  
広く浸水深0.5m未満の浸水が想定さ  
れる

課題⇒排水対策が必要

## 高潮浸水想定区域×都市情報

### 高潮浸水想定区域（想定最大規模）：

高潮（想定最大規模）による浸水は、マチナカ居住誘導区域に想定されていません。



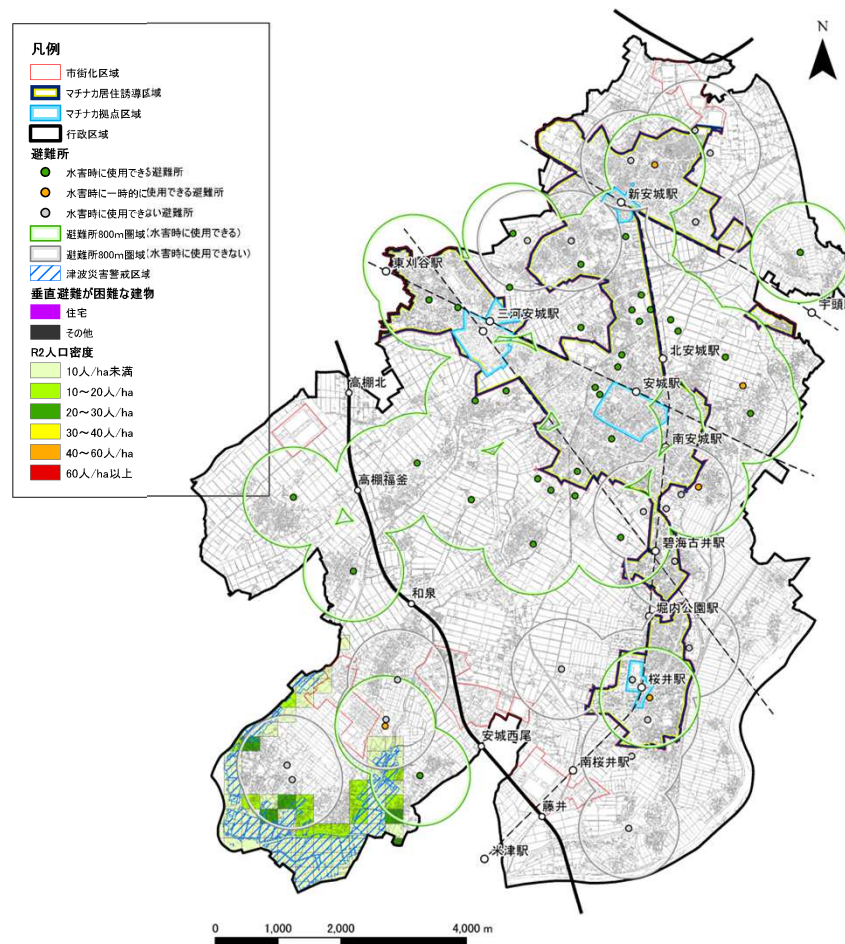
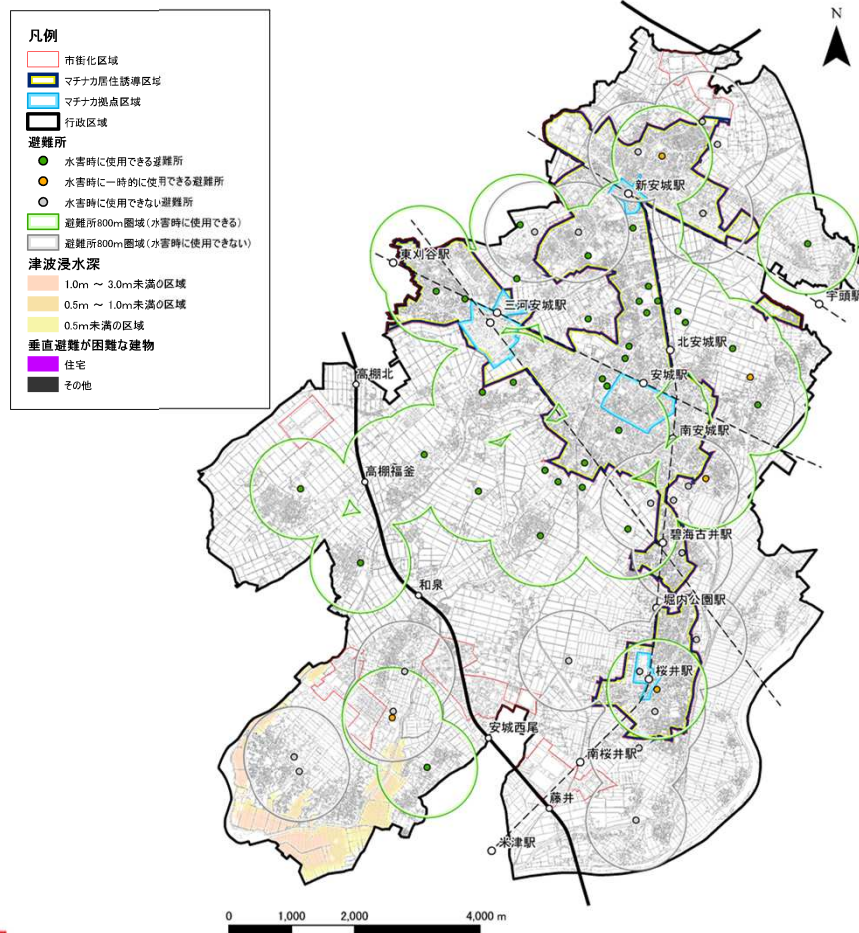
P.22



## 津波災害警戒区域×都市情報

### 津波災害警戒区域：

津波による浸水は、マチナカ居住誘導区域に想定されていません。

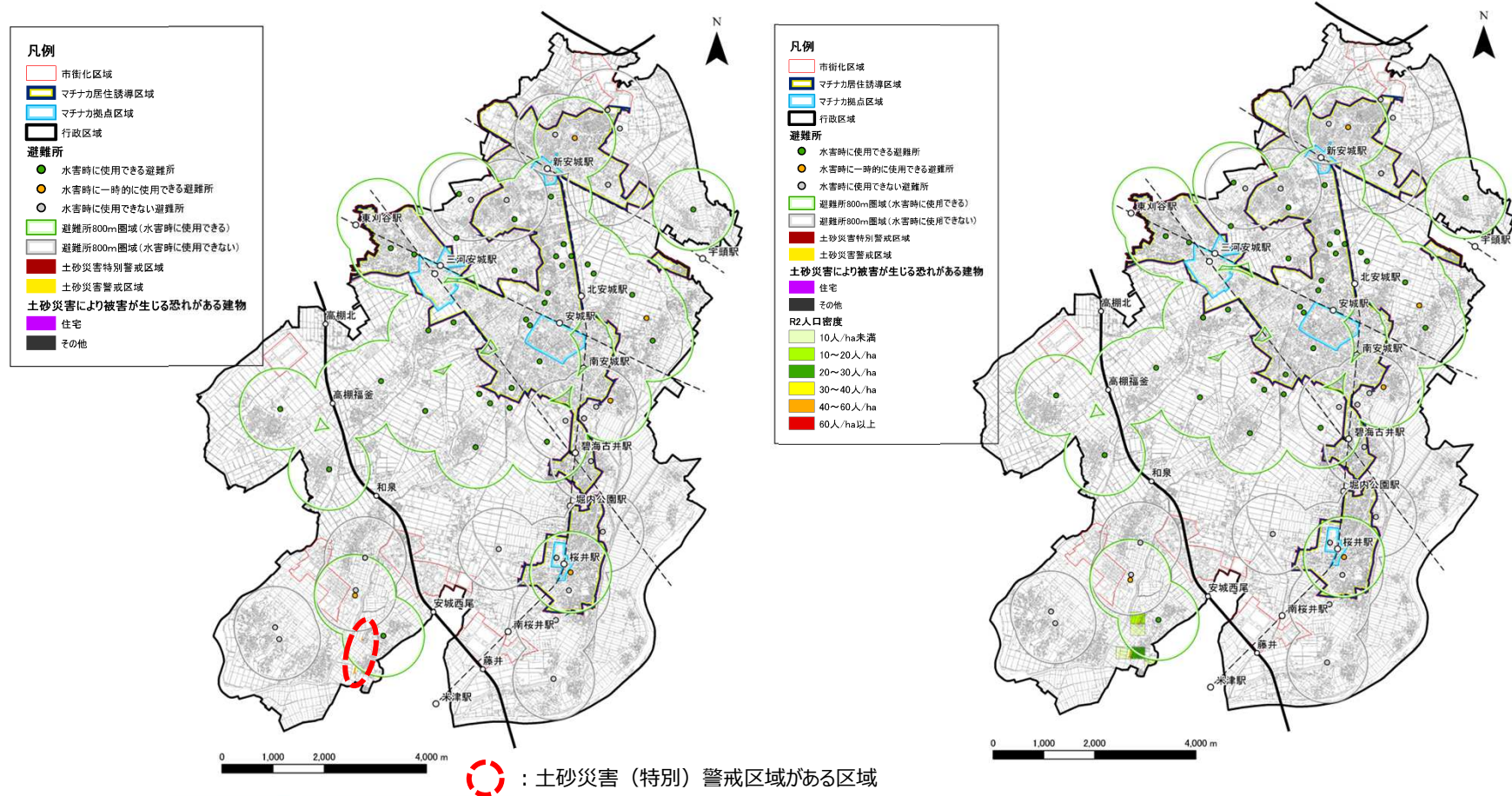


P.23

## 土砂災害（特別）警戒区域×都市情報

### 土砂災害（特別）警戒区域：

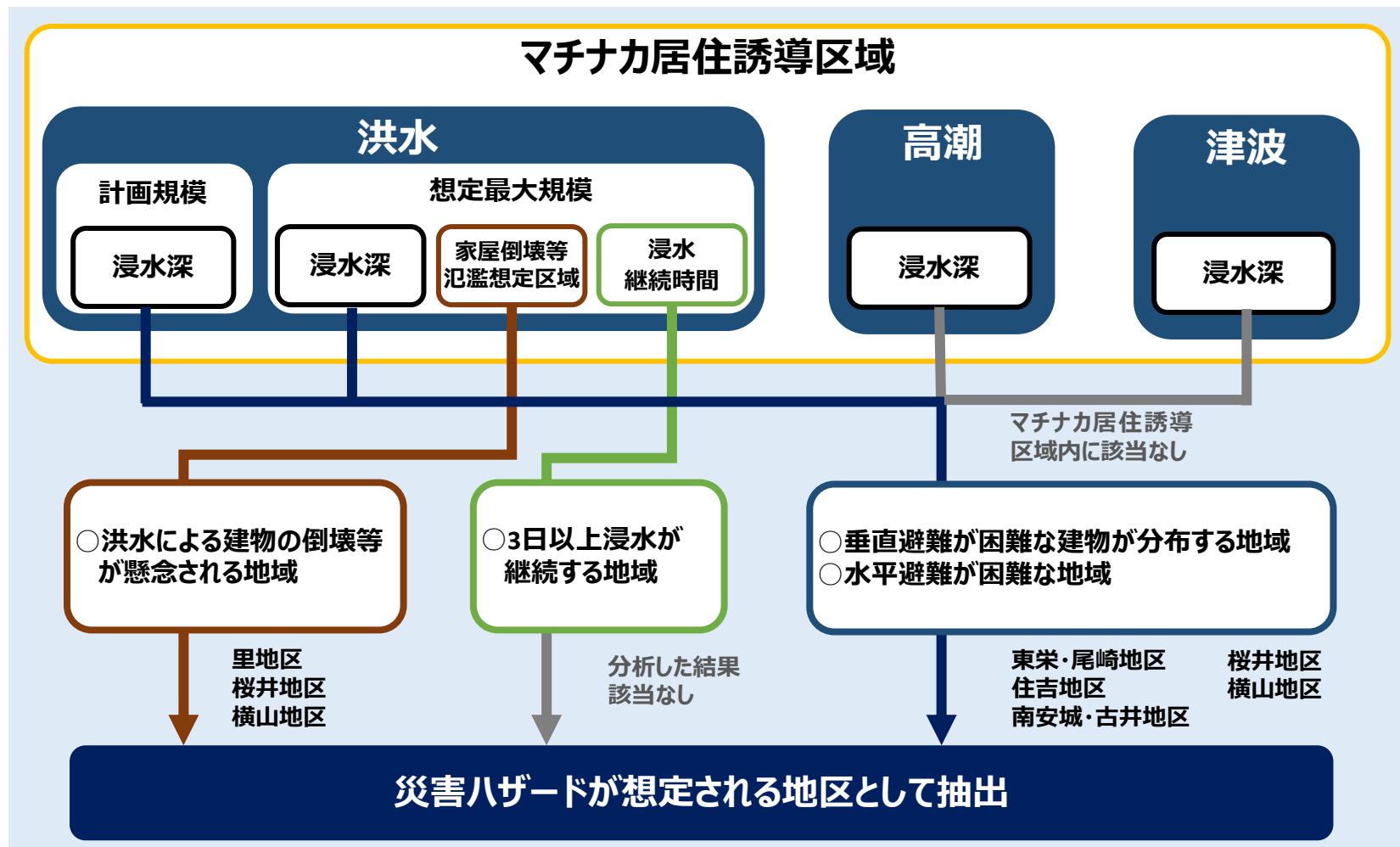
土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域が指定された地域では、高い人口集積はみられません。





## 災害ハザードが想定される地区の抽出

マチナカ居住誘導区域内で災害ハザードが想定される地区の抽出フロー



P.25

## マチナカ居住誘導区域の防災まちづくりの考え方

本市では水害ハザードに対応していく必要がある。

### ■水害ハザードへの対応方針

**洪水L1（計画規模）**：桜井地区等で浸水深1～3m未満の浸水、垂直避難困難な建物がある

**洪水L2（最大想定規模）**：広い範囲で浸水深1～3m未満、桜井地区の一部では浸水深3m以上の浸水、垂直避難困難な建物がある

**内 水**：広い範囲浸水が想定されるが、浸水深0.5m未満の浸水がほとんど

⇒＜ハード施策＞河川整備等の推進

＜ソフト施策＞避難に対する取り組みを推進

### ■土地利用に関する対応方針

#### ・都市機能誘導区域、居住誘導区域

既に市街地を形成していることから引き続き誘導区域に設定

災害リスクが高い地域では、避難に関する取り組みを優先して実施

#### ・居住誘導区域外

届け出制度を活用した立地誘導を図る

災害リスクが高い地域では、避難に関する取り組みを優先して実施



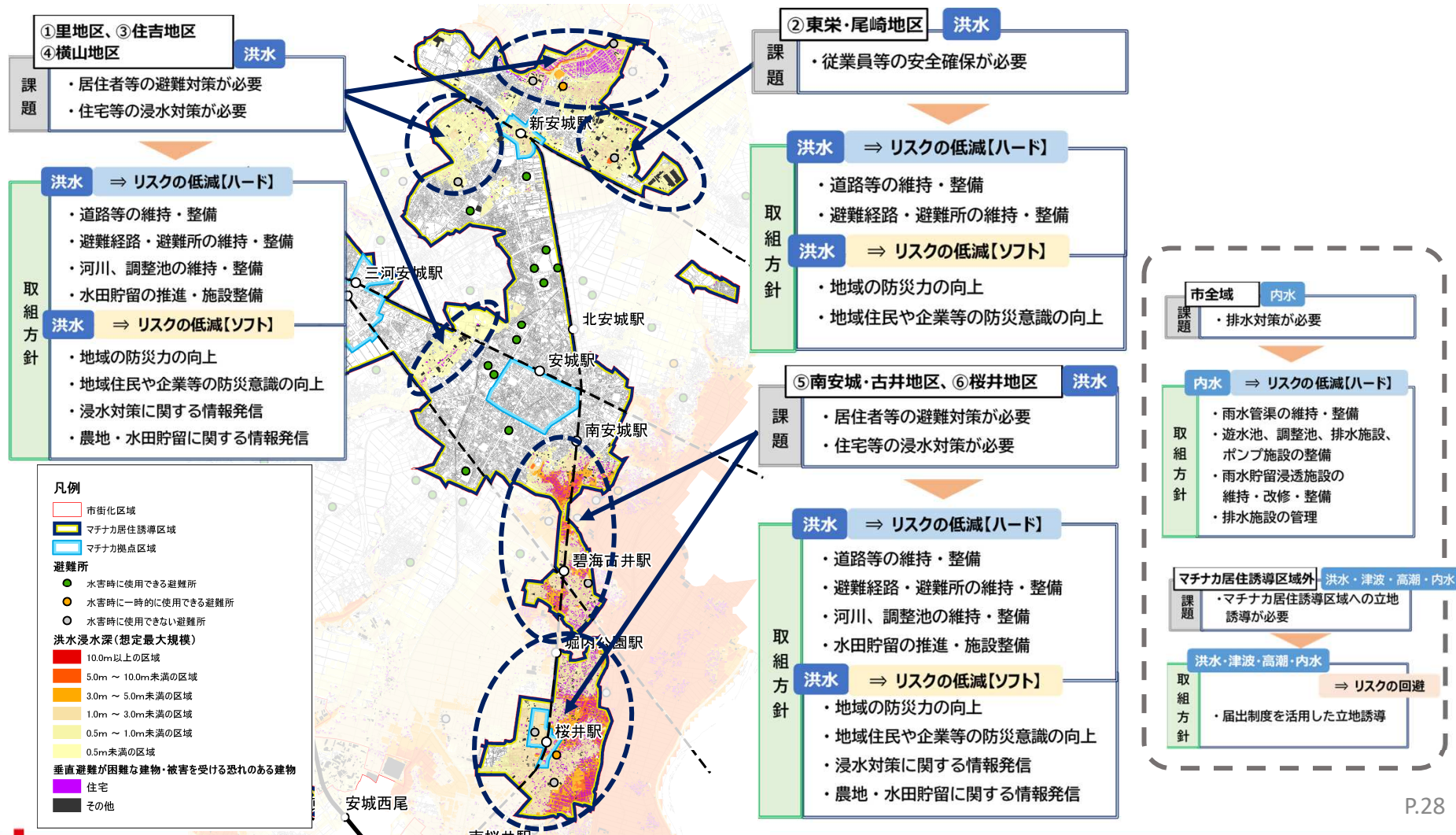
## マチナカ居住誘導区域における課題と取組方針

防災まちづくりの考え方を踏まえ、課題に対応した取組方針を整理

課 題	取 組 方 針		
	リスクの回避	リスクの低減 【ハード】	リスクの低減 【ソフト】
➡居住者等の避難対策が必要 ➡昼間に働く従業員等の安全確保が必要	-	・道路等の維持・整備 ・避難経路・避難所の維持・整備	・地域の防災力の向上 ・地域住民や企業等の防災意識の向上
➡住宅等の浸水対策が必要	-	・河川、調整池の維持・整備 ・水田貯留の推進・施設整備	・浸水対策に関する情報発信 ・農地・水田貯留に関する情報発信
➡排水対策が必要	-	・雨水管渠の維持・整備 ・遊水池、調整池、排水施設、ポンプ施設の整備 ・雨水貯留浸透施設の維持・改修・整備 ・排水施設の管理	-
➡マチナカ居住誘導区域への立地誘導が必要	・届け出制度を活用した立地誘導	-	-

P.27

## 課題に対応した取組方針



P.28

## 具体的な取組とスケジュール

取組方針	具体的な取組内容	実施主体	短期	中期	長期
災害リスクの回避	・届出制度を活用した立地誘導	市			
災害リスクの低減（ハード）	・道路等の維持・整備	○橋りょう維持管理事業			
		○道路の交通機能の拡充及び防災構造化			
		○鉄道施設の防災構造化、安全施設等の整備			
	・避難経路・避難所の維持・整備	○要配慮者利用施設の非常用自家発電設備・給水設備の整備の促進			
		○避難所等の仮設トイレ、毛布等、生活必需物資、資機材等の備蓄・整備、バリアフリー化の推進			
		○防災中枢機能の充実、防災関係機関相互の連携、浸水対策用資機材の整備強化、各部各班における業務用資機材等の整備・充実等の防災施設・設備			
	・河川、調整池の維持・整備	○国が管理する一級河川矢作川の整備の推進			
		○県が管理する一級、二級河川の整備の推進			
		○準用河川志茂川・長配川の整備に向けた準備			
		○準用河川などの速やかな維持修繕（河川浚渫事業の推進）			
		○下水道計画に位置付けられている調整池の整備			
	・雨水管渠の維持・整備	○土地区画整理事業における雨水管渠の面的な整備			
		○浸水リスクの高い地区における重点的な雨水管渠の整備			
		○準用河川や主な排水路の草刈り、排水樋管の点検			
		○市民による河川などの草刈り清掃作業の実施			
		○市民や町内会からの要望に基づく排水路の維持修繕			
		○河川・排水路の水質改善			
	・遊水池、調整池、排水施設、ポンプ施設の整備	○鹿乗川遊水池（上池）の整備			
		○調整池やポンプ施設の点検			
		○調整池等ポンプ施設長寿命化計画の更新			
		○西町雨水幹線新設改良事業の実施			
		○ポンプ場の新設又は改修、排水ポンプ場施設の耐水対策			
		○宮前ポンプ場の施設管理の徹底			
		○雨水排水網、調整池整備			
		○窪地等における浸水対策の検討			
・雨水貯留浸透施設の維持・改修・整備	○雨水貯留浸透施設設置（補助）	市			
	○市内全域における雨水流出抑制施設設置の更なる推進	市、市民、事業者			

取組方針	具体的な取組内容	実施主体	短期	中期	長期
災害リスクの低減（ハード）	・雨水貯留浸透施設の維持・改修・整備	○市内全域における雨水流出抑制施設設置の指導			
	・水田貯留の推進・施設整備	○土地改良事業と連携した水田貯留施設の整備			
	・排水施設の管理	○用排水施設整備事業			
災害リスクの低減（ソフト）	・地域の防災力の向上	○地区防災計画の検討			
		○地区防災計画の策定支援			
		○「みずから守るプログラム」の普及促進			
		○「安城市水害ハザードマップ」の周知と活用促進			
		○避難確保計画の作成と避難訓練の実施			
		○準用河川の点検調査、雨水排水路網図、調整池・ポンプ施設の管理台帳の更新			
		○より実践的な訓練の実施			
		○防災アセスメントの実施及び防災カルテ等の整備			
	・地域住民や企業等の防災意識の向上	○多様な情報伝達手段の周知と活用促進			
		○「安城市河川水位観測システム」の改良			
		○国が公開している「川の防災情報」の周知と活用促進			
		○まちど講座の開催			
		○小・中学校等での水害に対する防災教育の推進			
		○要配慮者施設避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保			
		○雨水貯留浸透施設設置補助制度の書類簡素化、Web 申請の導入等の手続きの改善			
		○予想される水害の危険の周知等			
		○自衛水防組織の設置（要配慮者利用施設）			
		○道路の浸水時の転落防止対策及び占用者に対する指導			
		○緊急避難場所等の広報			
		○避難のための知識の普及等の避難に関する意識啓発			
	・浸水対策に関する情報発信	○雨水対策に関する意識啓発			
		○隣接する市との共同で行う雨水対策事業の模索			
		○雨水浸透の意義や補助制度の P R			
		○雨水貯留や雨水利用の意義や補助制度の P R			
	・農地・水田貯留に関する情報発信	○緑地・農地の保全に資する各種制度の運用			
		○農地が有する多面的機能の P R			
		○水田貯留事業の P R			
		○水田貯留の効果検証			